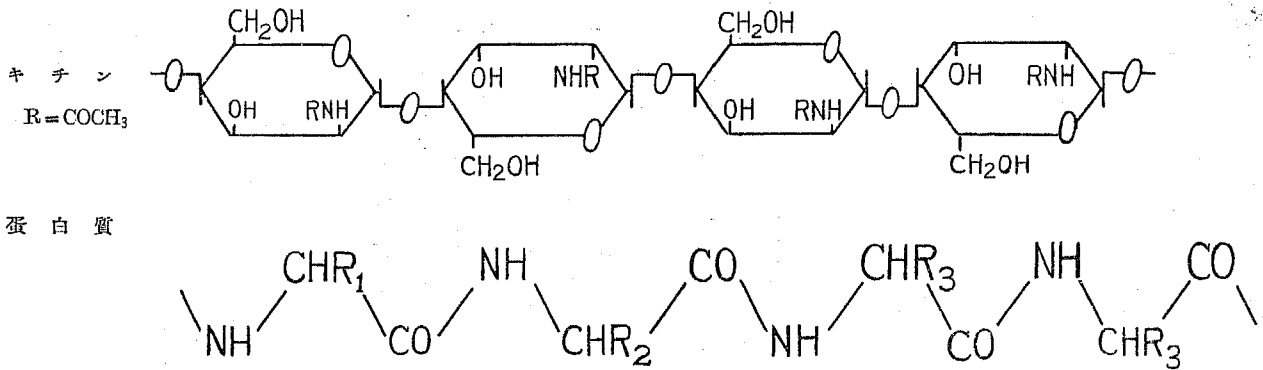
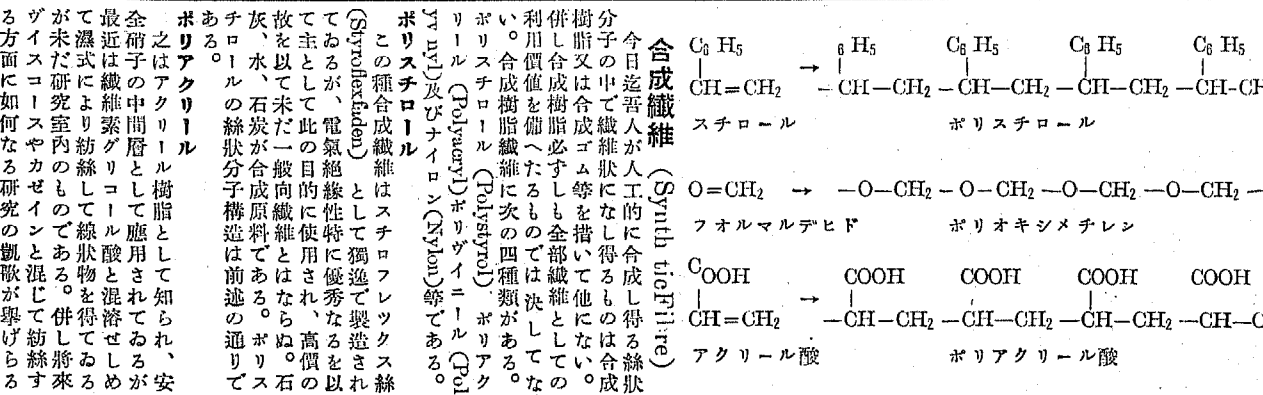


將來の纖維工業の革命は第二圖に示した如く、見えぬ纖維分子の優秀なるもの発見と其の活用とに在る。故に此際特に最近現れた此種人工合成纖維分子(合成纖維)纖維の二、三に就て述べて見やう。



今日迄吾人が人工的に合成し得る纖維分子の中纖維状になし得るものは合成樹膠又は合成樹脂等を指して他にはない。併し合成樹脂に必須するものは決してない。合成樹脂に次ぐ四種類がある。ポリスチロール (Polystyrene)、ポリアクリル (Polyacryl)、ポリビニル (Polyvinyl) 及びナイロン (Nylon) 等である。



本紙の編輯に關しては未だ學術的に公表されず、單に特許文面より得たるデータのみにて満足しなければならぬが、今日迄の調査研究によれば本紙の性質として特許文面に表れた事項は凡て之を肯定しなればならぬ。極めて優秀なる天然絹糸類似の而もこれよりも優秀なる諸性質を有する事が益々明らかになりつつある。故に本紙に就て少くも詳細に述べて見やう。

脂と稱してゐる。前述のステロール、アクリル等もCH₂-OH基を有するから一種のポリビニル樹脂であり重合能に當む。ポリビニル樹脂の分子配列は次の通りである。

この反応式に依つて見てもナイロンは先づ繊維となり得る資格を備へてゐると言ふ事が出来る。かかるポリアミド類の合成反応は種々の組合せによつて異なる性質を得られる。ナイロンの名前は登録商標を以てなく、ナイロンの名前は登録商標を以てなく、ナイロンの名前は登録商標を以てなく。

例として、(CH₂)₆NH₂ + HOOC(CH₂)₄COOH → [-NH-(CH₂)₆-NH-CO-(CH₂)₄-CO-]_n。例として、(CH₂)₆NH₂ + HOOC(CH₂)₄COOH → [-NH-(CH₂)₆-NH-CO-(CH₂)₄-CO-]_n。

強度(乾燥時) 四三、八%。伸度(乾燥時) 三、九%。伸度(湿潤時) 四四、〇%。伸度(湿潤時) 四四、〇%。

六、電氣絶縁性。電氣絶縁性として生絲は極めて悪き。故に電氣絶縁性電氣導性線として生絲は極めて悪き。故に電氣絶縁性電氣導性線として生絲は極めて悪き。

結論。以上述べた通り、ナイロンは天然絹糸に代つて、繊維工業の革命を成すに重要な材料である。其の性質は天然絹糸に劣らぬ。故に本紙に就て少くも詳細に述べて見やう。

滿支旅行漫筆 (二)

Y K 生

四、支那で會つた人々

上海では、飯島貞雄氏(紡一)に二回許り御目に掛つた。上海に着いた其の日、氏の會社に電話したら早速海寧路の豊陽館迄訪ねて来て下さつた。又一度は南京路の新雅と云ふ支那料亭で御招待を受け、氏は今回の事變中、現工場に踏みとどまつて頑張りどほし、具に籠城の辛苦を嘗められたと云ふ。幾度か警戒網を突破して食料品の買出しに、又は戦争の偵察に出かけ、途中様々の苦難に突つたつて死線を越え、辛ふじて責を果したと云ふヒヤ／＼するやうな苦心談をきいて其の當時の追憶にふけりつゝ、南京路、四馬路等の繁華街を散歩して廻つた。同氏から關口三郎氏(紡七)に面會された話が出た、夫れが東亞同文書院の運動會の會場であつたと云ふから、世間は廣いやうでも狭いものである。

僕は關口氏とは、上海では會ひ得なかつたが、之が又偶然にも此二月静岡支會總會の席上御目にかゝつて其奇遇に驚いた次第である。兩氏とも事業が非常に好調のよし承はつて大いに意を強うした。

華中蠶絲公司本社勤務の久保田昌人氏(蠶九)が在支されたなら、此の旅行にどんなに便利であつたらうか、と外地に踏み出して彌々其の感を深くしたが、出發前、御面會出来ないことを豫め覺悟して来たから、今更致し方無いこと、斷念して居た次第である。

無錫では在支會員の全部に御目にかゝることが出来た、元來無錫は中支有数の工業都市で、各種の工場が澤山集つて居るが、吾が華中蠶絲の製絲工場數も茲に集結して居、當時、蘇州二工場、杭州二工場に對し無錫には實に十一工場の多きに達して居た、從て製絲業は此所に主力

を注ぎ、工場課長の鹽見喜六氏(紡三)は上海の本社に居られないで、此の無錫に駐在されて全体の工場を綜覽して居らるゝ程である。矢田部忠吉氏(紡二)は南門外の振藝絲廠並に他の一工場の工場長として、吉岡亮一氏(紡七)も同じく二工場の工場長として敏腕をふるつて居られた、石附文吾氏(蠶一五)は無錫工場管内の原料部にあつて主として原料繭の獲得に奔走せられて居た、無錫の華中蠶絲公司は城内の中央部にあつて、若い人々は此の二階に起居され、中年組は前に立派な支那家屋を一軒借りて幾人かの支那ボーイを頼み込み、食事萬端を濟ませ、から常用の抱え車で通勤して居られた。

此の支那家屋が元は相當資産家のインテリアが住んだものらしく、用材調度頗る美麗を極め、間敷も非常に多く、書庫、神殿等も贅を盡し、世が世ならぬ感を深からしめる頗る立派なものであつた、此の家のお嬢さんの居室らしいと云ふあややかな一室に白大人と一緒に寢臺を並べて宿めて貰つた。鹽見、矢田部、吉岡、石附の諸兄と共にマントルピースを圍みながら、支那菓子を嗜つて夜の更くる迄すつかり話し込んで了つた。

無錫は工場地帯だけに人氣が頗る荒く人心の動搖必ずしも未だ平らかに無いと云ふ、吾が會員諸氏も、朝、域外の工場に出勤に及んで、日暮れ時にはさつきと城内に引き上げて了ふ、矢田部氏の腰間にアラ下る一握の革具等も那邊の消息を物語るものである。去年六月、購繭の頃から今日の狀態に至る迄、非常に困難と闘つて来た逃懷談をきいて見ると、統こそ取らないが、其の涙ぐましい健闘に至つては第一線將士の夫れと何等變ることなく、自ら頭の下がるを禁じ得ないものがある。

矢田部氏の案内で振藝絲廠を見學した無錫の町は穢なくて實に狭い、洋車のられ違ふが容易で無い程である、こんな所を隨車で揺られて行く、横合からドンと一發來ても決して犯人が判りそうも無い等と妄想を描く。絲廠はそんなに粗末のものでは無かつた。

又石附氏の案内で蘇州の工場を見たが之は片倉が造つたものだけに實に立派なものであつた、然し此所には會員は誰も居なかつた。

此の外、會員としては杭州には佐瀬旭氏(蠶六)が居らるゝ、私達が杭州に氏を訪ねた時、同氏は匪賊討伐隊の通釋として軍隊に戻つて附近に出動し不在であつた、以て同氏の活躍ぶりが想像せらるゝのである、馳つて歸つて來た氏に案内され西湖畔の支那飯店に宿つて始めて支那宿のマードンを味はされた、十二月二十日頃の甚しく寒い日で、あの薄いフトンにスチームの無い室では如何にもたまらなかつた、支那宿の味は寒いものとしつかりした烙印をおされて了つて爾來支那宿ときけば寒さにおびいで逃げて廻つた。

佐瀬氏からも附近の情勢を種々ときき事が出て來て非常に愉快であつた、二三日中又工場が一ツ殖えて、此の方面にも來年は原料繭を入れねばならないと云ふ困難をかこつて居られた、本年、信州邊の蠶種が入つたのは此の地方で、十八萬ヒク

ルの豫定が十萬ヒクルしか手に入らず、残りはどこかに流れて了つたと云ふことである、昔の儘の元氣さで、廣大の面積に原料繭獲得に大奮となつて渾身の努力を拂つて居る氏の健闘を祈つて決別して來た。

支那の留學生を見付け出して面會することは、僕のやうなエトランゼには決して出来るわざではない、然し、都合の良いことに白大人が居て、上海に特別關係の深い知己を澤山持つて居らるゝ關係もあるが、何れにしてもよく探し出しては面會する工夫をしてくれた。

もと化學に居た沈九如氏(紡一四)には兩三回共同租界の料亭で面會することが出来た。同氏は今、共同租界内で五百餘許りの製絲を經營されし、かも此の時局の波を乗り切つて、英資をもとに出に相當の利益を收め、如何にも支那人らしい風采で意氣揚々たるものがあつた。即ち日本とは反對の立場にあるわけであるが、それでも好漢の疑ひをかけられて、日本人と遭うことも戦々競々たるものである。然し吾々としては、敵國內の業界の一端を覗けながらも知ることが出来て非常に参考になつた。華中蠶絲が現在の方針を堅持する限り、彼を日本にくつつけることは困難な事だと思つた。周元功氏(蠶一七)にも上海で面會出來た。事變前は試験場長として江蘇省きつての立役者であつたが、今は、百八十度の轉回で、豚と米屋とをひきぐ一商人として市内に縋晦して居られた。生家の註野閣では、未だ相當大きな蠶種製造をされて居るのだが、今は許可證の無いために其所にも歸へる事が出来ない。風雲の志を抱きながらマーシャヤン等に嚮を遣つて居る現狀を大變に氣の毒に思つた。一夕招待を受けて純支那方式の料理を御馳走になり且つ現在日本に對する伴らざる希望をきく事



が出来て非常に愉快だつた。

王福山氏(蠶一七)をも上海で訪ねあて、涙で綴る敗走ルート―廣東―香港―上海―湖州―杭州―上海の跡をきいて大に同情を寄せたものであつた。一時は通譯として日本の爲に懸命の努力を拂つた事もあつたが、捕虜が實を吐かぬ限り其の責任迄自分の負ふ所となつて、同じ辛き運命に追ひこめられ、堪えられぬまゝ逃げ出したと云ふことである。今、彼の肚を忖度すると、四川の方面に食指大に動いて居るべく見受けられたので、滿洲に世話する約束をして訣れを告げた。今日に至るも其の後の去就が判らない。

會員ではないが、租界内にある永振蠶絲廠の技術官として、昔西ヶ原に遊學したと云ふ〇〇〇氏にも面會した。永振蠶絲廠は支那第一の製絲家であつたが今は米國に走つて、製絲は中止して居ると云ふことである。

蘇州では、暨關の大有蠶種製造所長〇〇〇氏、蠶種家〇〇〇氏會員の〇〇〇氏〇〇〇氏の二氏及び事變直前迄學校に在つて、佐藤教授の元に研究生をして居た段秋松氏に面會し、白大人と共に鄭重なる御招待を受けた。此等の大人は兎角好漢の疑ひを受けて、いつも狙はれるときいたから姓名の明記をさしひかへた。つまり大人で、人質に取つても相當の代償を得られることもあるからである。

此等の人々に、御馳走になりながら、逃げる辛苦談等をきくのは、針の席に座らせられた感が無いでもない。而して、支那人としてでなく、同窓として、現在の心境を伴らず話してくれないかと、懇請しても、決して多くは眞實を云ふてくれない。だが、不平の端はしを對談中しばしば陳べるから、大体の意志だけは忖度することが出来る。要談は主として吾等に關係の深い華中蠶絲のことである。商賣には日本人等及びもつかない特別な技能を持ち、統制と云ふことが大嫌ひで商賣に依る利益を國家の保護と同じ位に考へて居る人々から、華中のやる方針は悉く反對であるから、御機嫌の良いわけに不平を洩らすのだから、その婉曲たることおびたゞしい。何もかもかなぐり棄て、裸の儘車座になつて話したかつた。

みすずのたわごと

岳人 生

戦争の形式の變つて仕舞つた現今では、宣戦布告の有無なぞ問題無く、吾々は戦争を認識し、對策を講ぜねばならぬ。事實又對外的の若干の問題と、對内的の若干の(特に形式的な)問題を除外すれば、本質は何等異なる處でもない。それ許り、本質は歐洲大戰以後約十五年を経た、始めての大戦争である。これに對して、復た戦争を遂行しつゝあり、これが將來ある期間内の戦争の形式を定めて對處せねばならぬ。從來の數限りなくあつた戦争を檢討し、多くの要素を抽出し得てこれに對する勝算ある對策を樹立し得ても、一般に考へ得られ、起り得る事象は總て起り、直接的、間接的に關係して來る事は明かである。

斯る場合は心構えの問題である。如何なる事が起るに對して、敢然と對處するに云ふ心掛である。沈着に、周到に、而かも斷々呼と處理して行く丈の精神を養つて置く事である。この事は個々の立法や統制より更に、緊急を要する事である。吾々が眞先に立つてやらねばならぬ事が多々ある。問題は蠶絲業に於ては左程重要でない事である。これは慎重に考へねばならぬ事柄である。蠶絲業は右の事を得策とする時、國家は左の事を欲し、右の事を如何に對處するか。例を生絲の國內消費に付て言へば平時に於ては生絲が他織維を排除して旺盛に消費されるの徴が論議された以所である。絹織物の發達に非ずと宣傳した以所である。絹織物の研究に専心した以所である。絹織物の領域を犯さんとし、人絹の壓迫を起し、麻の領域を犯さんとし、大童の奮闘を繰返した事は尙耳桑に新しき事である。然るに前述の本質的戦争が繼續せざるに及むとこの妥當な考へは一時中止せざるを得なくなつたのである。戦争の遂行に戦費が重要な事は勿論であるが現在の如く經濟機構が高度の線に達し、而も其の關係が相互に、各國間に及んで居る時代に於ては各國は交戦國を單なる顧客として、不利を見る事は出來ず、自國に執つて利、不利を確然とせしめ援助すべきを援助し、防害すべきを防害するの舉に出づる。當時の結果として居るのである。従つて今の大なる支那を相手とする場合に於ては何れを援助すべきかは特殊關係の國々を除いては自明の理であつて、昨今の事實は

驚くに足らないのである。斯くの如く經濟的關係の偏在する時、外貨の獲得は絕對受取勘定であらねばならぬ。現在我國内産業にして列國の我國に友誼的關係を有するものと不拘必要性ある此物に蠶絲の重要な性を生ずると同時に蠶絲の内容的動向性の如何に依らざる方策を決定される。絹織物の輸出あると謂へ、生絲の輸出額四億圓なる事實よりして我國蠶絲業の最終製品は生絲であるとしても異論のない所であらふ。(絹織物製品として輸出する事が外貨獲得に有利である事は勿論であるが永久に不可不能な原因もある。)として見れば現下一總の生絲をもこれを輸出する事は國家の必要とする所である。言ふ迄も無く、原料を國內に得らざる、生絲の輸出は産金以上の奉公を致す事が出來ると言ふ事は明かである。

入學試験問題

英語 (英文和譯) (二時間)

- (1) It is possible for a healthy mind to exist in a most unhealthy body, but the health of the body is certainly an aid to the health of the mind.
(2) Everything that can be done well is worth doing. It does not in the least matter how simple or how humble it may be. It is impossible to estimate the relative importance of different tasks. Their importance to us depends absolutely and entirely on whether we have or have not the capacity to do them well.
(3) There are friendships that are entirely uncritical. To certain men their friends are always above criticism. They are conscious only of their fine qualities. They are literally blind to their faults. Such a friendship is certainly pleasant to possess, and it often is a reviving and stimulating influence, because most men strive to be what their friends think they are. We may know all about ourselves, we may thoroughly realize that we are mean and cowardly and selfish, but, at the same time, it is good for us to know that at least to one other person we are something of a hero.

製絲教婦養成科入學試験問題

數學 (2時間)

- (1) 次式ヲ簡單ニセヨ。
1/(1-x) + 1/(1+x) + 2/(1+x^2) - 4/(1+x^4)
(2) 次ノ3 數ノ最大公約數ト最小公倍數ヲ求メヨ。
576 384 288.
(3) 次ノ方程式ヲ解ケ。
4/(x+2) + 7/(x+3) = 37/(x^2+5x+6)
(4) 甲一人ナラバ 14 時間ヲ要スル仕事ガアル、今甲コノ仕事ヲ始メタ 1 時間後カラ乙ガ協力スルコトトナツテ残りヲ 6 時間ヲ終ルコトガ出來タト云フ、乙一人ナラバ全体ヲ仕上ゲルニ幾時間ヲ要スルカ。
(5) 支那軍 10000 人ト日本軍 5000 人トガ戦ツタトコロ死傷者ガ前者ノ後者ノ 10 倍、生還者ハ前者ノ後者ノ 5/8 デアツタト云フ、兩軍ノ生還者數各何程カ。
(6) 年利 3 分 5 厘ノ額面 100 圓國庫債券ヲ 98 圓テ購入シタガ、利子ヲ受取ルトキニ税金トシテ利息ノ 7 分 2 厘差引カレルトスレバ實際ノ利廻ハ何程カ。
(7) 一邊 20 糶ノ四角ノ柱ヲ採ルニハ周圍幾糶ノ圓イ木材ヲ必要トスルカ。

(以上)

國語 (2時間) 省略ス

數學 (二時間)

- 1. 次ノ方程式ヲ解ケ。
x^5 + x^4 + 2x^3 + 2x^2 + x + 1 = 0
2. 次ノ値ヲ求ム。
log {sqrt(3+sqrt(5)) + sqrt(3-sqrt(5))}
3. 半徑 a ナル圓ニ内接シ且ツ互ニ外接スル三ツノ等シキ圓ノ半徑 r ヲ求メヨ。
4. 次ノ聯立方程式ヲ解ケ。
y/x - 1/xy = 1 - 1/2
xy - x/y = 1 - 1/2
5. 直角三角形ノ内接圓ノ直徑ハ 4m ニシテ斜邊ノ長サハ 10m ナリト云フ。他ノ二邊ヲ求ム。
6. 等比數ノ和ハ 21 ニシテ其最大項ハ 12 ナリ。今此級數ヲ更ニ續ケテ取り項數ガ初メノ 2 倍ニ至ル迄加フレバ其和ハ 189 ナリト云フ。此級數ヲ求ム。但シ公比ハ正ノ整數トス。

祝辭

千曲會代表 唐木田藤五郎

二三日前から郷里代町の草屋へ歸つて居りました。と申しては相済みぬ事かも知れませんが、久方振に母校の卒業式に列し其末席を汚すの機会を恵まれました事は私にとつて近來にない喜びと致すものであります。先刻國辱する卒業生の團體たる千曲會を代表して祝辭を申述べた様に、御指圖を受けました

が、私不肯にして元より其任ではありません。只浅からざる因縁に結ばれて、いみじくも三歳の年月を諸君と同じ此山水風物に育まれ諸君と同じ此學びに學び、松尾城頭に叫び千曲川原に語りひを致して同じ思出を持つもの、一人として今日無限の希望を抱いて新なる人生の出發點に立たんとする諸君に對し衷心より其前途の御幸福をお祈り申さうと同時に聊かなりとも年長者として希はくは諸君の余生涯を通じて易らざる意氣と信念と努力とを切望するの情を禁じ得ないものがあるものであります。

雪中松柏愈青々 網常扶植在此行
天下久無憂勝潔 人間奚獨獨喪
義高覽覺生捨耐 亂重當知死輕甚
南八男兒遂不屈 皇天上帝限分明

と云ふ詩は私が平生愛誦して居る詩の一つであります。本當に夏の閑野も山も木も草も青々と繁茂してゐる間は、愈々秋になつて霜枯れ冬になつて霞々たる白雪が山野を掩ふ時初めて松や杉の青い事が何人の眼にもはつきりとし認識されるのであります。私共人間として修養を志し其本來の面目を發揮せん事を希ふ根本義が若し國家の大事に臨んで身命を賭し一身の危局に直而して其進退用所を誤らざらしめんとするにあらば、今日此國家未曾有の非常時に際會し躍進日本の國運を双肩に擔ふて新なる人生のスタートを切らんとする新卒業生諸君の如きは實に洵に願ひてもなき絶好の機会を恵まれたる幸運児であつて、惟ふに男兒の本懐を是に勝るものはないと確信致すものであります。天が其人に大任を下さんとす

るや必ず先づ與ふるに大幸苦を以てするは古來の名言であります。我國豚たる蠶絲業の現状も躍進日本の前途も將た又新東亞建設の運籌にも諸君の意氣と信念と努力とを必要とするもの多々益々大を加へつゝあります。狂瀾怒濤山の様な大波

が蠶絲業界にも日本の前途にも東亞の天地にもひし／＼と押し寄せて來て居ります。我が國を突破し展開し新運命を打開して神國日本の姿を生々躍動せしむるものは、即ち諸君に課せられたる最大の使命であります。凡そ東西古今の歴史をひもといて各國治亂興亡の跡を訪ねると天下の大事社會の革新は殆んど悉く元氣騰れたる青年の力に依つてなされて居る事は事實が何者よりも雄辯に是を物語つて居ります。

楠正行が菊水の旗風をひるがへして四條原に花々しい最後を遂げ英名を千歳に残したのは彼が二十三歳の時であり、ナポレオンがアルプスの嶺を超へローマに攻め入つたのは彼が二十六歳の時であり、九郎判官義経が屋島、壇ノ浦に勇名をはせたのは彼が二十九歳の時であり、マルチンルーテルが宗教革命の大企をひつぎけてローマ法王に迫つた時は彼は三十四歳の青年であつたのであります。近く明治維新の大業が達成された時明治大帝が御年僅かに十六歳にお在りました事は、甲午も畏き極み、乙未年も長年長年西郷隆盛が漸く四十一歳であり大久保利通が三十七歳、木戸孝允が三十四歳、板垣退助大隈重信が三十一歳、伊藤博文に至つては僅か二十八歳の青年であつた事は諸君のよく知らるゝ通りであります。私は大正の初め世界を擧げてデモクラシーの聲に醉つた東洋の事など誰も顧す支那を論ずるなどは漢學先生の御訓辭を受け本校第三十回卒業證書授與式の成典を擧げらるゝ六回卒業證書授與式の成典を擧げらるゝ兄弟等の光榮又何物か之に比へん。我等又均しく其慶を共にする所なり生等入學以來學弟として一年はた又二年の間共に學び共に磨き厚き友情に導かれつゝ或は千曲の清流に心を洗ひ或は高原の仙巖に身を清め共に浩然の氣を養へり。憶へば實に感懐深きものあり。光陰矢の如し兄弟等は今や學務生活を終へ懐しき此學園を去らんとす故に袂別に際し其喜びと共に胸中離別情の迫り轉々愛惜の情禁する能はざるものあり。然りと雖も兄弟等今より實社會の一員として當らんとす此祝すべき前途に當り生等學務生活の爲何ぞ戀々たるものあらんや。只管兄弟等の集立つ此吉日を下し其前途を祝福し必ず理想の彼岸に達するの日あることを祈る。尚後益々蠶絲紡績の天地を開拓伸展に力を盡し

や蠶絲紡績の天地を開拓伸展に力を盡し、手を懸望して止まらざるなり。惟ふに今や胸懐の聖職は長期持久の體制に進み學園一致國難打開の爲に盡し大君の御威威に

となる事は不可能でないといふ確信を以て學窓を出てられん事を希望するものであります。私は徒らなる大言壯語を好みません。勿論私の様な行方をしるゝものは決して申しません。諸君には夫々諸君の本質と行方とがある筈ですが、只希はくはアンビシアスボーイとなつて、大野心大理想を畫がき是が達成に當つては如何なる事態に遭遇するも少しも念がす臆がす驚がす靜かに自己の姿と社會の動向とを考察し乍ら烈々たる意氣と易らざる信念と限りなき努力を容れまざらん事夫れが私の衷心の念願であります。唯我獨自何物を求めていつこに赴くもよし只高き理想を掲げ乍ら低き現世を歩み永久に易らざる意氣と信念と努力とを續けて頂き度い夫れは決して諸君のみの幸福に止らぬい母校の名譽となり日本の礎石となり更に光榮ある日本帝國の名を通じて世界人道上に貢献し得る唯一最善の道なりと確信するが故に敢て此言をなすものであります。誠に野人禮に慣はざるも聊か平生の所信を披瀝して祝辭に代へた次第であります。

在生總代 松山芳郎
春陽麗らかに山野は芽くみ天地萬象悉く甦らんとするの好時節、兄弟等は正に星霜三ヶ年登雪の功成り平素の勤勉は酬ひられて本日茲に朝野貴賓の光臨を辱し校長閣下の懇篤なる御訓辭を受け本校第三十回卒業證書授與式の成典を擧げらるゝ兄弟等の光榮又何物か之に比へん。我等又均しく其慶を共にする所なり生等入學以來學弟として一年はた又二年の間共に學び共に磨き厚き友情に導かれつゝ或は千曲の清流に心を洗ひ或は高原の仙巖に身を清め共に浩然の氣を養へり。憶へば實に感懐深きものあり。光陰矢の如し兄弟等は今や學務生活を終へ懐しき此學園を去らんとす故に袂別に際し其喜びと共に胸中離別情の迫り轉々愛惜の情禁する能はざるものあり。然りと雖も兄弟等今より實社會の一員として當らんとす此祝すべき前途に當り生等學務生活の爲何ぞ戀々たるものあらんや。只管兄弟等の集立つ此吉日を下し其前途を祝福し必ず理想の彼岸に達するの日あることを祈る。尚後益々蠶絲紡績の天地を開拓伸展に力を盡し、手を懸望して止まらざるなり。惟ふに今や胸懐の聖職は長期持久の體制に進み學園一致國難打開の爲に盡し大君の御威威に

卒業生總代 山岸琢治郎
本日生等百餘名の爲に茲に盛大なる卒業證書授與の式典を舉行せられ朝野貴賓の光臨を辱し文部大臣閣下を始め來賓各位の祝辭を賜る更に校長閣下の御訓辭と先輩諸兄並に在生諸君の激勵の辭に接す光榮何物か之に加へん。顧みれば生等入學以來三三三の清々たる清々たる校風に薫じ校長閣下の德澤春水の如きに潤ひ又教務諸君の能はざる諸先生の御教導を受けけ下は鳥原草ならざる諸友の交りを得て今日卒業の榮光を御得たり。想ひて茲に至れば生等の御徳徳はさらなり師恩の鴻大なる感謝の語を離さず。今や國難並に東亞新建設の聖業は着々効を奏しつつあり然れ共日ソ關係は着々問題に於て事態愈々切迫せるものあり尙歐洲に於て是は民主國家ファッショ諸國間に於て微妙なる政勢の推移ありて些かも監視を致さず、又内に於ては戦時体制統制經濟下に所期聖業の完成へと邁進しつゝ、波瀾重疊たるものあらん。此の超非常の時、當り生等校門を辭し淺學非才を以て大難に當らんとす。生等元より不肖なり、誠に誠心以て爾益々品格の陶冶をはかり苦心以て業に精進し共に幸ひに恩師の御訓辭と先輩諸兄の御教導を得て皇運の進展に力を致し世界の文化に貢献し以て報せん事を期す。最後には校長閣下を始め諸先生御健康と在生諸君の奮勵に校運の隆昌を祈りて答辭とす。

叙任辭令
今井輝雄
會計課勤務ヲ命ス
三月六日
養賢實習指導賜賜記
賜託ヲ解キ副手ヲ命ス
三月三十一日
製絲教諭 關 かほる
三月三十一日
依田啓藏
給一級俸 副手兼講師 小松忠一郎
任上田蠶絲專門學校助教授
給五級俸 助教授 目崎 三郎
任上田蠶絲專門學校教授
七級俸下賜 七級俸下賜 香山清和
任上田蠶絲專門學校教授
七級俸下賜 七級俸下賜 香山清和
七級俸下賜 七級俸下賜 香山清和

卒業生之部
從七位 堀田 廣貞
從七位 内藤 邦雄
正八位 石川 健丸
從七位(以上昭和十三年十二月十五)

地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎

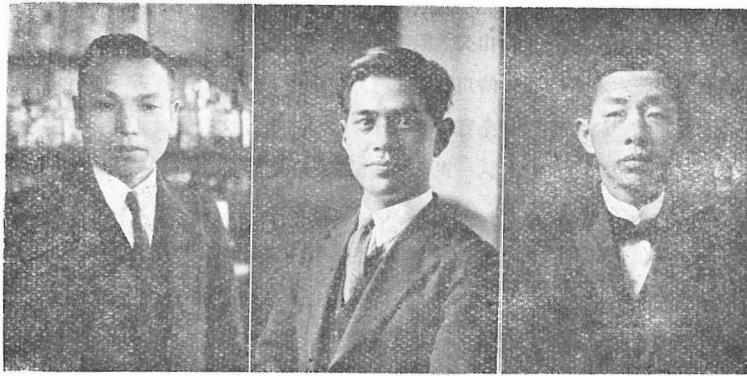
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎

地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎
地方農林技師 土屋茂一郎

母校ニュース

目崎助教教授に昇進 母校紡績科助教目崎三郎氏は三月三十一日附を以て教授に昇進せられた。衷心から御祝詞を申上ぐる次第である。同氏は機械方面の實務に通曉して居つて、現在の紡績科としては同氏の如き實際家に今後を期待すること多大である。同氏は群馬縣勢多郡上川淵村の出身、桐生織物學校を明治四十年卒、大正元年十一月迄織物學校に勤務、其後母校紡績科に轉勤せられ大正九年十月助教に任ぜられ現在に至つたものである。

香山助教教授に昇進 母校紡績科助教香山清和氏は三月三十一日附を以て教授に昇進せられた。紡績科にとつては母校同科出身の二度目の教授にして心から御祝を申上ぐる次第である。同氏は特に理論と實際とを具備せる青年研究學徒として紡績科にとつては唯一のホープでもある故同氏には今後益々自愛の上活躍せられんことを祈る。同氏は上田市舊藩名家の出にて大正十年上田中學を卒へ



大正十三年母校絹紡績科を卒業し直ちに平塚市關東紡績株式會社に入り昭和七年三月迄勤務、其後母校に戻り昭和八年三月講師となり昭和九年一月助教に任ぜられ現在に至つたものである。

小松講師助教に任官 母校紡績科講師小松忠一郎氏は三月三十一日附を以て助教に任ぜられた。同氏は上伊那郡富田出身、大正九年諏訪中學を卒へて直ちに二高に入りて中途退學、大正十三年母校絹紡績科を卒へて本縣池田實中教諭兼大町高女教授賜託として就任、大正十五年三月迄勤務、其後昭和八年十二月迄岡谷市丸一尾澤組に勤務、昭和九年母校に戻り金子博士の下に指導を受け同年十一月講師となり現在に至つたものである。

劍道部昇段及び編入 劍道部では三月一日左の如く昇段及び編入を發表した。卒業生の部 伊藤 勢龜(糸四) 小宮山太助(糸八) 原田 種龜(糸九) 竹村 中和(糸十) 渡邊 齊(糸五) 右五段に進む

右四段に進む 後藤 幸一(糸五) 三谷 勝(糸五) 宮尾 行雄(糸五) 右三段に進む 佐藤 俊三(糸五) 牧野 弘(糸七) 野口新太郎(糸二) 小松忠一郎(糸三) 阿久澤 清(糸四) 右二段に進む 右四段に進む 在校生の部 古平 太三(糸三) 小山 長雄(糸三) 有川 博(糸三) 小川 一雄(糸三) 青山 武(糸三) 小川 典二(糸三) 右三段に進む 宮原 丈夫(糸二) 工藤 榮次(糸二) 中村 富治(糸二) 伊藤 正義(糸二) 小山 富治(糸二) 鈴木 高明(糸二) 右二段に進む 目崎 武美(糸三) 重田 正喜(糸三) 齋藤 重利(糸三) 土屋 久雄(糸三) 宮澤 久雄(糸二) 北崎 喜義(糸三) 右初段に進む 井上 次郎(糸一) 右初段に編入す 福田 六郎(糸二) 森本 彰(糸二) 岸木悦太郎(糸二) 諏訪幾久男(糸二)

右一段に進む 牧野徳太郎(糸二) 小幡 昇(糸二) 渡邊 亮一(糸二) 井上 貞二(糸二) 梶田 治(糸二) 足立 新太郎(糸二) 江山 貴昭(糸二) 中原 亨(糸二) 島山 重夫(糸二) 宮田 章(糸二) 森山 晴美(糸二) 右二級に進む 加中 三郎(糸二) 村澤 巧(糸二) 田中 信重(糸二) 御子柴希太郎(糸二) 小林 剛(糸二) 相原忠一郎(糸二) 右二級に編入す 阿武 快雄(糸一) 今田 達雄(糸一) 村澤 益雄(糸一) 目崎 正夫(糸一) 水口 米雄(糸一) 小川 政夫(糸一) 清水 秀俊(糸一) 篠田 鏡一(糸一) 右二級に編入す

春季團膳手合 三月五日(日曜日)午前九時より千曲會館日本間にて春季團膳第一回の手合會があり、市内菊岡初段格が來會指導され、古谷、倉澤、行元、小泉、志賀、清水、宮本、宮坂、細谷、北村、町田、村瀬氏等が出席された。

今井輝雄氏新任 三月六日付を以つて職員として今井輝雄氏が會計課に勤務されることになった。同氏は埴科郡中之條村の出身、大正十三年小縣蠶業學校を卒業、蠶糸上田支所、村役場を経て來られスキーにかけては縣スキー聯盟技術員である丈に卓越せる腕前である。

學年試験 本年度の在學學年試験は三年生は三月九日、一、二年生は十七日より廿四日に亘り行はれたが、最近不正行為ありの風評を遺憾となし、絶對公正を期すべく監督を厳しくすると同時に斷乎たる處置が再度申合せられた。

同窓會新入會員歡迎會 同窓會では三月九日午後三時より千曲會館階上に於て新卒業生の千曲會入會の歡迎會を催した。教授會の都合にて開會遅れる事になりたる爲其の間最近南支より歸還せる蠶糸上田支所の松岡潔氏の戦地談話を聞き四時頃開會となり、蒲生理理事長が開會の挨拶に倉澤理事不在の爲會期、庶務の事を述べ、次いで林理事が會計に就て、須田理事が會員動靜に就て、山口理事が蠶糸學雜誌並に蠶糸總覽に就て、香山理事不在にて小松理事が千曲時報に就て夫々千曲會機構の詳細な説明をなし、中澤勝也氏の努力を促し、次いで先輩の中澤勝也氏の有益な處世訓があり、新同窓生は新らしき希望に力強きを感じ、代表養蠶科の長末方夫君が謝辭を述べ最後に野口理事

より閉辭があつて六時頃散辭した。尚先輩小宮山太助、原田種龜、兒玉來、山崎壽氏等が來會された。

陸軍記念日講演 三月十日の陸軍記念日には午後二時より二時間に亘り第四教室に於て職員學生一同、母校配屬將校進藤大佐の時局講演を聞いた。講演は日露戰役の動機に始まり當時の舉國緊張、並に滿洲、支那事變に至る皇國の興隆、推移及び急迫せる世界狀勢に於ける國民の心構へ等に就て語られ一同非常な感銘を受けた。

校友會誌「ちくま」發刊 校友會誌第三十五號が卒業式の三月十五日發刊された。本號から思ひ出深い「ちくま」の名稱にて出すことになった。本號には東京帝大名譽教授文學博士村川堅四郎氏の「世界的に觀たる吾國の使命」文化講義の速記録)及び母校與正巴教授の「化學纖維に就て」の有益な論文の外、學生の懸賞論、多數の文苑が盛り込まれてゐる。例に一部宛差附された筈である。

故岡宮辰夫氏市葬に參列 昭和十三年九月廿四日支那河南省濟源縣揚山北方高地附近に於て名譽の戦死を遂げられた故陸軍伍長岡宮辰夫氏(蠶二五選)外上田市出身者、故上原原雄、故竹内利雄、故窪田末吉、故森山善次郎、故砥石彌重氏の英靈五柱の市葬が三月十七日午後一時より市内小學校北校庭に於て舉行され母校職員、生徒多數參列弔意を表した。

蒲生教授御講演 高爾價を豫期される養蠶科を控えて業者は大奮であるが、母校蒲生教授は三重縣の各郡養蠶業組合の招聘に依り左記日程にて「蠶作の安定と飼育の原理」と題する講演をされ非常な好評を博した。

三月十九日 三重縣多氣郡相可町 三月廿一日 鈴鹿郡龜山町 三月廿二日 度會郡下外城田村 入學試験 本年度入學試験は三月二十三日上田、東京、名古屋、京都、岡山、福岡の六ヶ所に於て執行され、教養養成科は二十六日本校に於て執行された。志願者は十五日締切で養蠶科一七、製絲科二七八、絹紡績科二八五計六八〇名であつた。二十九日の教授會に於て養蠶科三七名、製絲科三五名、絹紡績科三三名、養蠶選科三名、製絲選科三名、絹紡績選科

選科二名の入學可を許した。教養養成科は志願者一六(昨年は二五)名の中より十一(昨年は十八)名の入學可を許可した。入學試験問題及び入學許可者氏名は別記の如くである。

關かほる氏退職 製絲科教諭關かほる氏(教五)は家庭の都合上三月三十一日付を以つて退職せられた。同氏は教養養成科卒業以來二ヶ年間生徒の諸檢査に又林教授の研究の助手として勤務今日に及んだものである。

瀧澤捷伊千(昌) 西川正夫兩氏新任 本春養蠶科卒業の瀧澤捷伊千(昌)、西川正夫の兩氏は四月一日付を以つて副手を拜命、蠶糸化學實驗室に勤務することとなつた。

新任御挨拶 謹啓 時下陽春の働各位益々御多祥の段奉慶賀候 陳者私儀今般本校會計課に勤務致す事と相成候に就ては専心校務に精勵致す覺悟に御座候へば何卒今後共宜敷御交誼御指導の程御願申上候 先は乍略儀以紙上御挨拶申上候 會計課 今井輝雄

御挨拶 謹啓 春暖之候愈々御多祥之段奉賀上候 陳者私儀上田蠶糸專門學校在學中は種々多大なる御懇情を蒙り難有御厚禮申上候 御蔭様にて今般無事卒業致し母校化學實驗室に勤務致す事に相成候間何卒今後共相不變御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候 先は乍略儀以寸楮御禮券々御挨拶迄如斯御座候 敬具 四月 蠶糸化學實驗室 瀧澤捷伊千(昌)

御挨拶 謹啓 春暖之候愈々御多祥之段奉賀上候 陳者私儀上田蠶糸專門學校在學中は種々多大なる御懇情を蒙り難有御厚禮申上候 御蔭様にて今般無事卒業し母校化學實驗室に勤務致す事に相成候間何卒今後共相不變御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候 先は乍略儀以寸楮御禮券々御挨拶迄如斯御座候 敬具 四月 蠶糸化學實驗室 西川正夫

御挨拶 謹啓 春暖之候愈々御多祥之段奉賀上候 陳者私儀上田蠶糸專門學校在學中は種々多大なる御懇情を蒙り難有御厚禮申上候 御蔭様にて今般無事卒業し母校化學實驗室に勤務致す事に相成候間何卒今後共相不變御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候 先は乍略儀以寸楮御禮券々御挨拶迄如斯御座候 敬具 四月 蠶糸化學實驗室 西川正夫

御挨拶 謹啓 春暖之候愈々御多祥之段奉賀上候 陳者私儀上田蠶糸專門學校在學中は種々多大なる御懇情を蒙り難有御厚禮申上候 御蔭様にて今般無事卒業し母校化學實驗室に勤務致す事に相成候間何卒今後共相不變御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候 先は乍略儀以寸楮御禮券々御挨拶迄如斯御座候 敬具 四月 蠶糸化學實驗室 西川正夫

御挨拶 謹啓 春暖之候愈々御多祥之段奉賀上候 陳者私儀上田蠶糸專門學校在學中は種々多大なる御懇情を蒙り難有御厚禮申上候 御蔭様にて今般無事卒業し母校化學實驗室に勤務致す事に相成候間何卒今後共相不變御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候 先は乍略儀以寸楮御禮券々御挨拶迄如斯御座候 敬具 四月 蠶糸化學實驗室 西川正夫

御挨拶 謹啓 春暖之候愈々御多祥之段奉賀上候 陳者私儀上田蠶糸專門學校在學中は種々多大なる御懇情を蒙り難有御厚禮申上候 御蔭様にて今般無事卒業し母校化學實驗室に勤務致す事に相成候間何卒今後共相不變御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候 先は乍略儀以寸楮御禮券々御挨拶迄如斯御座候 敬具 四月 蠶糸化學實驗室 西川正夫

御挨拶 謹啓 春暖之候愈々御多祥之段奉賀上候 陳者私儀上田蠶糸專門學校在學中は種々多大なる御懇情を蒙り難有御厚禮申上候 御蔭様にて今般無事卒業し母校化學實驗室に勤務致す事に相成候間何卒今後共相不變御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候 先は乍略儀以寸楮御禮券々御挨拶迄如斯御座候 敬具 四月 蠶糸化學實驗室 西川正夫

御挨拶 謹啓 春暖之候愈々御多祥之段奉賀上候 陳者私儀上田蠶糸專門學校在學中は種々多大なる御懇情を蒙り難有御厚禮申上候 御蔭様にて今般無事卒業し母校化學實驗室に勤務致す事に相成候間何卒今後共相不變御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候 先は乍略儀以寸楮御禮券々御挨拶迄如斯御座候 敬具 四月 蠶糸化學實驗室 西川正夫

御挨拶 謹啓 春暖之候愈々御多祥之段奉賀上候 陳者私儀上田蠶糸專門學校在學中は種々多大なる御懇情を蒙り難有御厚禮申上候 御蔭様にて今般無事卒業し母校化學實驗室に勤務致す事に相成候間何卒今後共相不變御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候 先は乍略儀以寸楮御禮券々御挨拶迄如斯御座候 敬具 四月 蠶糸化學實驗室 西川正夫

御挨拶 謹啓 春暖之候愈々御多祥之段奉賀上候 陳者私儀上田蠶糸專門學校在學中は種々多大なる御懇情を蒙り難有御厚禮申上候 御蔭様にて今般無事卒業し母校化學實驗室に勤務致す事に相成候間何卒今後共相不變御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候 先は乍略儀以寸楮御禮券々御挨拶迄如斯御座候 敬具 四月 蠶糸化學實驗室 西川正夫

御挨拶 謹啓 春暖之候愈々御多祥之段奉賀上候 陳者私儀上田蠶糸專門學校在學中は種々多大なる御懇情を蒙り難有御厚禮申上候 御蔭様にて今般無事卒業し母校化學實驗室に勤務致す事に相成候間何卒今後共相不變御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候 先は乍略儀以寸楮御禮券々御挨拶迄如斯御座候 敬具 四月 蠶糸化學實驗室 西川正夫

御挨拶 謹啓 春暖之候愈々御多祥之段奉賀上候 陳者私儀上田蠶糸專門學校在學中は種々多大なる御懇情を蒙り難有御厚禮申上候 御蔭様にて今般無事卒業し母校化學實驗室に勤務致す事に相成候間何卒今後共相不變御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候 先は乍略儀以寸楮御禮券々御挨拶迄如斯御座候 敬具 四月 蠶糸化學實驗室 西川正夫

戰地通信

原利夫氏より

嚴寒の候校長先生には益々御壯健の事と賀し奉ります昨年八月からの長い御無沙汰何と御詫申し上げます...

鷹野睦二郎氏より

謹啓時下嚴寒の候校長先生には其後お

變りもなく御壯健にてお暮しの事と御遠察申上ります。平素は疎遠に打過ぎ誠に申...

鈴木茂氏より

御端書本日有難く拜見致しました。長らく御無沙汰致し申謝申上ります。又色々御世話に相成有難く御禮申上ります。

久芳大三氏より

拜啓 彌生の頃となりましてが、校長閣下を始め御一同様には益々御壯健にて御暮しの事と存じます。

加藤省三氏より

謹啓 時下嚴寒の候益々御清穆の段奉慶賀上候。陳者不肖加藤昨年十月出征以來臨汾附近にて連日討伐並宣撫工作に將亦鐵道警...

中村幸雄氏より

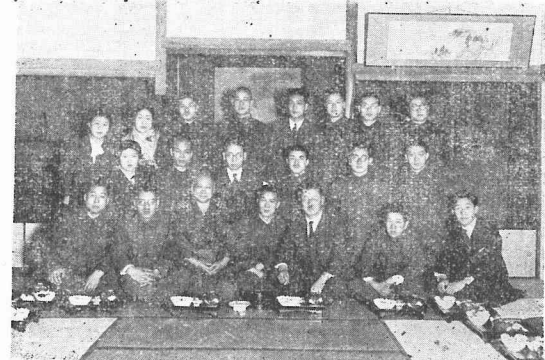
時下初春の候と相成りました。其の後軍務多忙に取紛れ意外なる御無音に打過ぎ申譯有りました。御尊家様には益々御勇健と遠察申上ります。

柳澤曹長より

生微温い春風は殺風景の當奥地さへ訪れて来りました。緑の如にも懐かしの農夫の姿が有りまして現れ其れは表像を描くものが有りまして。斯くして陽春の北地を...

支會通信

拜啓 陽春の候、内地は今頃からそろそろ櫻の花に恵まれ、懐かしき限りには御座候。大陸の春は内地の夫と異なる感興が得られ、當方一同意氣益々熱を加え、協力一致活躍致し居り候間御休心被下度候。...



Handwritten signatures and names, including '柳澤曹長', '加藤省三', '鈴木茂', '鷹野睦二郎', and others, arranged in a calligraphic style.

計報

弔慰金募集

故島倉惣次郎氏(紡六) 故小川 春男氏(糸十七) 故小島 杉門氏(蠶八) 故竹村 中和氏(蠶十) 以上四氏に對し弔慰金を募集致しま...

故服部吉氏 御遺族よりの禮狀

拜啓 陽春之候貴會益々御繁榮の段奉大 賀候。今同恩息故令吉之村葬の節は懇々...

故竹村中和氏 御遺族よりの禮狀

謹啓 父中和儀葬儀の節は御多忙中にも 振らず遠路御會葬被下且つ御御重なる御...

故岡宮辰夫氏 御遺族よりの禮狀

謹啓 故陸軍歩兵伍長岡宮辰夫儀市街の 際には御多忙中御喪きの所御會葬被下且又...

故山口永太郎氏 御遺族よりの禮狀

謹啓 彌生之候に相成候處各位愈々御健 勝の段奉賀上候 陳者過日は故永太郎の靈に對し遠路懇々...

弔慰金報告

- 故兒玉慶次氏弔慰金第三回 金五圓也 千曲會 鈴木 敦吾 萩野 俊一 石原 石司...

大尾農義君を憶ふ

清水 洗

此の度中支戦線に於て大尾君の訃に接す。敢て拙文を掲げ以て君の靈を慰めん...

竹村君を憶ふ

母袋 良平

二月四日、僕は臺灣へ出張して歸つた 許りの日曜日であつた。用事があつて朝...

種業の現状や將來に就ての話は盡きず、 君は絶えず、卓越した識見を持つてゐ...

新卒業生就職先

養蠶科

(廿一名)

- 青有山間原内原田崎原間山川... 青有山間原内原田崎原間山川... 青有山間原内原田崎原間山川...

絹紡織科 (一八名)

- 淺井清三 飯田武門 飯田武門... 淺井清三 飯田武門 飯田武門...

製絲教養養成科 (一三名)

- 荒井美子 石原さかひ 萩原幸子... 荒井美子 石原さかひ 萩原幸子...

御挨拶

謹啓 時下春暖之候益々御清穆の段... 三月十七日 小松忠一郎

御挨拶

私儀今回理事會の再三の御推舉により... 四月一日 小松忠一郎

千曲時報編輯部主任 小松忠一郎

